

【目次】

- |  |                      |
|--|----------------------|
| 1. 巻頭言「工学部(第二部の改編と技術士会への期待)」<br>東京電機大学<br>工学部長・工学部第二部長 佐藤 太一 | 4. 活動状況              |
| 2. レポート「今後の技術士制度について」 奥田 榮司                                  | 5. TDUG 平成30年度行事(予定) |
| 3. 会員の広場   | 6. お知らせ              |
|  | 7. 重要・お願い            |
|  | 8. 編集後記              |

TEL: 03-5284-5140 FAX: 03-5284-5187

URL: <http://www.tdukoyu.com/proengineer/index.html>

E-mail: [kouyu-g@jim.dendai.ac.jp](mailto:kouyu-g@jim.dendai.ac.jp)

巻 頭 言

工学部第二部の改編と技術士会への期待

東京電機大学

工学部長・工学部第二部長 佐藤 太一

平成28年に工学部長兼工学部第二部長を拝命してから、東京電機大学技術士会の皆様とは、少しずつではありますがお付き合いさせていただく機会が増えてまいりました。そして、平成30年の工学部第二部の改編に当たっては、技術士会の皆様に実践知重点科目を担当していただくという深いお付き合いとなりました。

今回、巻頭言でご挨拶する機会を与えていただき、大変ありがたく思っております。実践知重点科目へのご協力に感謝申し上げますとともに、そこでの技術士会の皆様への期待などを述べさせていただいてご挨拶としたいと思います。

本平成30年度工学部第二部改編には、以下の三つの特徴があります。一つ目は、ものづくりの現場で生きる実践的な教育内容を提供する『社会人課程(実践知重点課程)』の開設、二つ目は、学習意欲があり、働きながら就学する「新社会人」を対象とした『はたらく学生入試』の導入、最後が、工学部第二部のさらなる発展を見据えた『定員増』です。

ここでは、特に、社会人課程で柱となる「実践知重点科目」を技術士会の皆様にご担当いただきますので、その開発の基本的な考え方、特徴などを述べていきたいと思います。

学生は、大学を出て企業で働き、企業におけるOJTを介して、プロの技術者へと育っていきます。そこでは、もちろん、大学における工学の基礎的な学びが活かされています。と同時に、大学で「もしこんなこと」を教えてくれていたらもっとよかったのに、という思いが多くの企業人の中にあるのではないかと推察しています。実際にそうした思いを、私自身、企業時代に持っていました。「もしこんなこと」を教える場が大学にあり、学生時代にそれを学ぶことができるとしたら、プロの技術者への道のりも短くなるのではないかと思います。こうした考えが、実践知重点科目開発の原点です。

実践知重点科目の開発にあたっては、工学のキーコンセプトである「ものづくり」「安全・安心」を中心に据え、さらに、社会人にとって重要となる「スキル・キャリアアップ」を取り上げました。

企業での各種ものづくりに技術者間の協力は欠かせません。そこでは、技術分野の異なる技術者間のコミュニケーションが重要になります。自分の専門分野の知識が必要なのはいうまでもないのですが、他分野技術者とコミュニケーションができるだけの知識も必要です。そのような

背景に基づいて、実践知重点科目は、技術分野横断型の科目設計としました。

さらに、「ものづくり」とその「安全・安心」を担保する技術者の責任までを一連の流れと捉え、それに沿ってストーリー性を持たせた「開発・設計ユニット(7科目)」と「安全・安心ユニット(6科目)」を立ち上げました。

また、科目担当者については、実践知重点科目の趣旨から、企業経験などを有する教員の担当が適切であると判断し、学部の垣根を外して教員を選任して「オール東京電機大学教員」で科目を担当することとしました。

以上のような基本的考え方は、工学部第二部の社会人課程学生のみならず、広く企業人に受け入れられる考え方であるとも言えます。そこで、主として企業人を対象とした、「実践知プログラム(履修証明プログラム)」を開設しました。実践知プログラムは、実践知重点科目のうち、核となる8科目を選定し、その中の6科目を履修し、合格(単位修得)した者をプログラムの修了者とするものです。さらに、本プログラムは職業実践力育成プログラム(BP)認定に向けた申請を予定しています。

実践知重点科目は、技術分野横断型となっていますが、3科目の授業のうちの同一技術分野(3科目×5回/科目=15回)を履修するという考え方もできます。これをモジュールと呼んで、「企業人特別聴講生」として受け入れる試みも進めます。この取り組みの特徴は、短期間(約1ヶ月)で特定技術分野の集中的な学修を提供するものであり、働きながら学ぶ企業人にとって都合のよいシステムとなっていることです。

最後になりますが、実践知重点科目においては、技術士会の皆様に「技術者キャリア形成学」を担当いただきます。そこでは、技術者倫理、技術提案書、技術資格などをご講義いただけると伺っています。私流に一言で表現しますと、技術者のための「仕事の流儀」のご講義と考えております。後期に開講されるこの講義を今から楽しみにしております。何卒よろしくご厚意申し上げます。

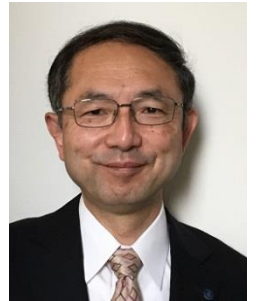


図 大学と企業の掛け橋「実践知」